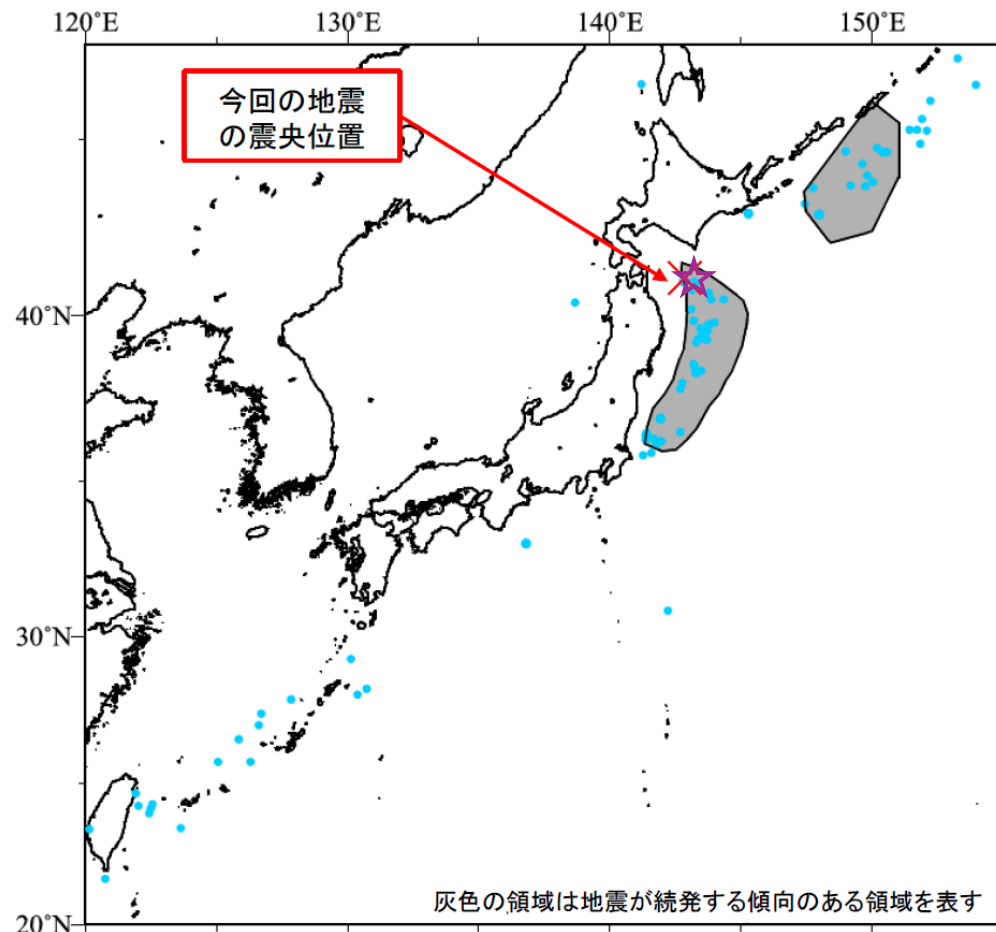


震源周辺における規模の近い地震の続発事例について

(参考資料)

大きな地震発生後に規模の近い地震が続発した過去の事例 (海域)

1923年～2016年6月、海域で発生した深さ0～80km、マグニチュード6.0以上、規模の差が0.5以内もしくは同規模以上の地震が発生した地震を●で表示



規模が近い地震が続発した過去の事例は、地震調査研究推進本部地震調査委員会「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書による。

令和7年12月25日公表資料より抜粋

気象庁報道発表資料「令和7年12月8日23時15分頃の青森県東方沖の地震について」(<https://www.jma.go.jp/jma/press/2512/09a/kaisetsu202512090115.pdf>)から抜粋

■日本全国での過去の事例

海域で発生した大きな地震の場合、過去には規模が近い地震が続発した事例があります(左図の●印の地震)。

特に、左図の灰色の領域(海域の続発領域)内で大きな地震が発生した場合は、それ以外の海域で発生した場合に比べて、規模の近い地震や、より規模の大きな地震が続発しやすい傾向があります。

■今回の地震の周辺における過去の事例

今回の地震の周辺では、1943年に青森県東方沖で発生したM7.1の地震の2.2日後にM6.6の地震が発生した事例があります。

図中の「今回の地震の震央位置」は12月8日青森県東方沖の地震(M7.5)の震央位置であり、12月12日のM6.9の地震の震央位置を☆で気象庁報道発表資料に追記。